

- ・凍結乾燥法
- ・目通し，風通し，紙の保存性評価法，強制劣化試験
- ・劣化のメカニズム

東伝製紙術と西伝製紙術の違いの起源

江南 和幸

(龍谷大学名誉教授)

中国で出現した紙と発達した製紙術が他の地域に伝播していった経緯と，現存するトルファンと敦煌関係の紙資料の科学的分析から非伝播の製紙術を検証し，東伝と西伝の製紙術の相違点を明らかにすることで，その地域の特徴と紙の発展を歴史的に考察する。

1. はじめに：紙の出現
 - ・原初の紙（ぼろ麻布原料），蔡倫による製紙術（樹膚を使った製紙法の出現）
2. 製紙術のアジアへの伝播：中国の周辺国への技術伝播と仏教の伝播の一環
 - ・中央アジア，ウイグル族，ベトナム，高句麗，日本：樹皮を使った先進製紙法
3. ヨーロッパの製紙術（伝わらなかったアジアの先進製紙法）
 - ・「羊皮紙」の長期間使用
 - ・アラブから伝わった「ぼろ布」原料の製紙法を 19 世紀初頭まで使用
4. アラブへの製紙術の伝搬
 - ・751 年タラスへの遠征で，アラブ軍に大敗し捕虜となった唐軍の紙漉き工人のサマルカンドへの連行により，製紙術を伝授
 - ・ぼろ布を原料とする製紙術
 - ・植物樹皮・草類韌皮繊維を原料とする紙づくりは非伝授
5. トルファン旅団兵役文書の用紙
 - ・大谷探検隊の「兵役文書」
 - ・紙の分析：高解像度デジタル顕微鏡（キーエンス VHX500）
 - ・旅団が使った紙：「麻ぼろ布」を原料とした紙
 - ・トルファン旅団の「紙すき工部隊」と「ぼろ布紙」の作成
 - ・旅団のインテリジェンス管理に不可欠の「紙」を，紙漉き工を使って遠征中に作成
 - ・東伝製紙術と西伝製紙術の決定的な相違：起源はトルファン旅団の兵站
6. 和紙とヨーロッパとの出会い：ヨーロッパの製紙法と日本の製紙法との違い
 - ・東洋文庫蔵キリシタン版用紙は日本の雁皮紙。紙の実物の伝播と製紙術の非伝播
→ヨーロッパにおける紙の普及の遅れ
 - ・紙づくりの相違，アジア：手漉き，家内工業，ヨーロッパ：手漉きであるが，半機械工業化が進む
 - ・印刷・紙の相違点，アジアの薄い紙：彫版印刷による摺り，ヨーロッパの厚い紙：活字によるプレス印刷

使用資料：

キリシタン版『Flosculi ex veteris, ac novi testamenti』

『スピリツアル修行写本』

重要文化財『ドチリーナ・キリシタン』の複製本（図6）

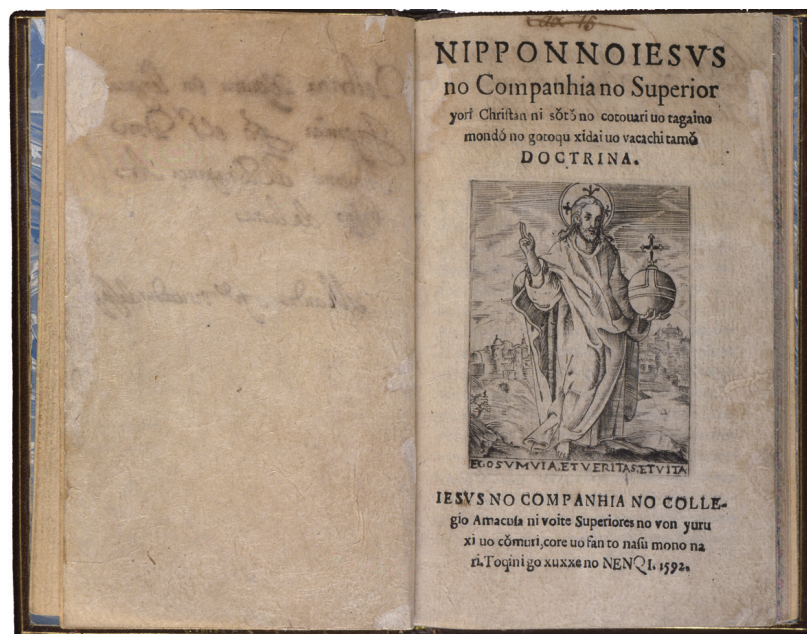


図6 重要文化財『ドチリーナ・キリシタン』日本イエズス会編 文禄元年（1592）天草刊ローマ字日本語活字版（（公財）東洋文庫所蔵）

コディコロジーからみる東洋・西洋・日本

石塚 晴通

（東洋文庫研究員・北海道大学名誉教授）

中国の漢字文献における異体字の特徴と地域性を考察することにより、漢字文化圏の広がりと発展をみていく。また、紙の材料の科学的分析によるコディコロジー（文理融合型書誌学）的考察から東洋の書誌について考える。

英文タイトル：Codicology of the Hanzi Script as the Middle Point Report

1. Glyphic Standards（字体標準）

Terms（Calligraphic form 書体, Glyphic standard 字体, Shape 字形）

Variants and Glyphic Norms

Lunyu, the *Kaicheng* engravings copy（開成石經論語）

Variant ratio（異体字）

2. Chronology and History of Glyphic Standards

1) China: before the Tang（唐）period